P2-041

診療所・保健センターで予防接種を受ける子どもへのプレパレーション ー看護職者が実施後の関わりで心がけていることー

杉山 智江[1]、藤沼 小智子[2]、佐鹿 孝子[3]、坂口 由紀子[4]

[1]埼玉医科大学　医学教育センター、
[2]東京医科大学　医学部看護学科、
[3]埼玉医科大学大学院　看護学研究科、
[4]日本医療科学大学　保健医療学部　看護学科

【はじめに】
予防接種は痛みや苦痛を伴い複数回接種することが多いが感染予防のため重要である。子どもの心理的混乱を避け子どもが主体的に治療や処置に取り組めるような関わりとしてプレパレーションが重要である。

【目的】
診療所・保健センターの看護職が予防接種実施後に心がけている子どもへのプレパレーションの実際を明らかにする。

【方法】
調査期間2014年2月～3月にA県西部地方の診療所・保健センター等で勤務する看護職を対象にプレパレーションの実態や予防接種実施後の関わりについて自記式質問紙調査を行った。調査協力依頼文と質問紙は1施設1部発送し郵送法にて回答を得た。自由記載は意味内容毎にコード化し、類似内容をまとめてカテゴリーに集約し研究者間で検討し合意を得た。

【倫理的配慮】
施設長の承諾は書面にて確認し、調査対象者へ質問紙を渡してもらい回答は任意であり辞退により不利益を被らないことを説明文に記した。本研究は所属施設の倫理審査委員会にて承認を得た。

【結果・考察】
診療所・保健センター（481施設）へ配布し回収数86（回収率17.9%）、プレパレーションを実施していたのは14施設、実施していないが49施設、無記入が23施設であった。看護職が予防接種実施後の関わりで心がけていることへの自由記載があったのは65施設であり、その記述内容（100件）は以下の通りであった。〔 〕内はサブカテゴリー名、＜＞内はカテゴリー名、（ ）内に件数を示した。予防接種実施後は〔頑張りを誉める（28）〕や〔頑張りを認める（3）〕など＜頑張りを認めて誉める（54）＞関わりや〔親を含めた労いの声かけ（3）〕など＜接種できたことへの労いの声かけ（13）＞を多く行っていた。予防接種が〔終了したことを伝える（3）〕と共に〔シールで痛みから気をそらす（1）〕〔ご褒美シールやお菓子をあげる（5）〕〔緊張を緩和する（1）〕などディストラクションを含む＜場面の切替と緊張緩和への配慮（14）＞を心がけていた。〔達成感や自信につなげる関わり（3）〕や〔次回も頑張れるよう声かけ（3）〕〔予防接種の目的や効果を説明（2）〕するなど＜次回の予防接種へのつなぎ（11）＞をすることで、次回予防接種への心理的準備や子どもの主体性を発揮できる様な関わりをしていた。〔接種直後の安全確認（2）〕や〔家庭での注意事項を説明（2）〕して〔接種後の副反応を予測した対応（2）〕など＜予防接種実施後の安全への関わり（8）＞を心かげていた。

P2-042

予防接種を受ける幼児と家族への外来看護師のプレパレーション実践の影響要因 ～外来看護師の予防接種に関する思いの語りから～

藤沼 小智子[1]、佐鹿 孝子[2]、野田 智子[1]

[1]東京医科大学　医学部看護学科、
[2]埼玉医科大学大学院 看護学研究科

【はじめに】
予防接種は子どもの健康増進にとって必要不可欠であり、子どもが納得して予防接種を受けられることは重要である。また子どもへの理解を促す方法であるプレパレーションは子どもに情報提供を行うことで主体的に病気や治療に取り組むことができる。先行研究において診療所等では、予防接種を受けるために自ら来所した子どもと親を対象とすることが多いことからも、子どもが予防接種を受けることを納得していることを前提として看護職が関わっていると推察された。

【研究目的】
予防接種を受ける幼児と家族に対する外来看護師の思いを明らかにし、プレパレーション実践に影響する要因を考察する。

【研究方法】
幼児に対して予防接種を行う外来に勤務する看護職6名を3グループで自記式質問紙調査・インタビュー調査を行った。質問紙調査結果は単純集計し、インタビュー内容は同意の上で録音し、逐語録化し記録内容も含めて質的帰納的に分析を行った。

【倫理的配慮】
施設長の承諾は書面にて確認し、対象者へ説明文書を渡してもらい、2段階にて研究協力の同意を得た。インタビュー実施前には、文書と口頭にて研究の趣旨及び辞退により不利益を被らないこと、匿名性と個人情報保護、記録媒体等の厳重な保管等について説明した。また、A大学の倫理審査委員会にて承認を得た。

【結果・考察】
対象者は30代1名、40代5名であり、小児看護の経験は5-9年3名、10-14年3名であった。小児看護の経験場所は小児病棟・診療所が2名、診療所が4名であった。また、プレパレーションについて、はじめて聞いたが4名であり、実施していないが5名であった。予防接種を受ける幼児と家族に対する外来看護師の思いについての語りを文節ごとにコード化した（110件）。＜＞はカテゴリー名、（ ）に件数を示した。予防接種を受ける幼児と家族に対する外来看護師の思いは、＜接種時の危険を考える（10）＞＜安全に予防接種をしたい（4）＞、＜嫌がっても接種して帰るもの（18）＞＜子どもと親の気持ちを尊重したい（23）＞＜子どもに説明することの大切さ（12）＞＜身体の大きさによる接種介助の難しさ（8）＞＜子どもについての愛着や考え（12）＞＜外来の進行や他の患者への気兼ね（7）＞などがあった。外来におけるプレパレーション実践に影響する要因として安全や嫌がっても接種するものという認識、他患者への気兼ねなどがあると推察された。

Presented by Medical*Online